

反戦・平和と核兵器廃絶の運動推進に向けて



▲恒久平和を誓う参加者たち

戦争犠牲者追悼、平和を誓う8・15集会に参加

8月15日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、「平和を誓う8・15集会」が開催されました。東京清掃からは四役全員で参加し、退職者会からも駆けつけていました。参加者全員の黙祷で始まり、フォーラム平和・人権・環境、立憲民主党、社会民主党、戦争をさせない1000人委員会、それぞれの代表より誓いのことが述べられました。主催者であるフォーラム平和・人権・環境の染共同代表からは「平和な社会を100年、200年先の未来へと確実に引き継いでいくことが、現代を生きる私たちに課せられた責務です」と恒久平和の実現に向けた発言がありました。

東京清掃労働組合は「反戦・平和」を運動方針に掲げ、あらゆる取り組みを進めています。今後も平和憲法を守り、反戦・平和の取り組みをさらに強化し、平和の実現を目指した運動を進めていきたいと思います。

(萩原 崇氏)



▲献花する多田委員長

核兵器を容認しない社会・世界をつくる

被爆79周年原水爆禁止世界大会・原水禁長崎大会

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

8月7日～9日、被爆79周年原水爆禁止世界大会・長崎大会が開催されました。

初日の開会総会では、黙とう、主催者挨拶と続き、海外ゲストスピーチでは中国軍縮協会の安月軍（アン・ユエチュン）より、中国が核兵器先制不使用を世界に求めていること、NPT（核拡散防止条約）の締約国で条約を制定することの重要性が示されました。

「被爆体験者」訴訟については池田章子さん（長崎市議会議員）より報告がありました。被爆体験者とは、被爆者と認められていない被爆した人のことです。被爆者と同じ爆心地から半径12キロ以内にいたのに国が定めた被爆地域外にいたために、被爆者と認められませんでした。被爆体験者の証言からも、黒い雨や核物質を含んだ飛散物がその地域に降っていたことは明らかです。その訴訟の判決が9月9日に行われますので、判決を注視していきたいと思っています。

続いて、全国から集った第26・27代高校生平和大使・高校生1万人署名活動の皆さんが登壇しました。「微力だけど無力じゃない」をスローガンに雨の日も暑い日も署名活動を行っています。



核も戦争もない平和な21世紀に！

続いて、福島平和フォーラムの角田政志さんから福島第一原発に関わる報告の後、大会基調報告があり、最後に参加者全員で「原爆をゆるすまじ」を斉唱して閉会しました。

2日目は各分科会が行われ、第5分科会では「ヒバクチャー継承・二世課題」というテーマで取り組みました。最初に被爆者の川副忠子さんから報告、続いて弁護士の間秀和さんより、「被爆二世の闘いは核廃絶を目指す」と題して、自身が被爆二世、弁護士としての立場からの話を受けました。問題の本質は、世代を超えた被害を及ぼす各被害について、無理やり蓋をしようにとするもの、過去のものにしようとする態度だと指摘されました。午前中の最後には全国被爆二世団体連絡協議会会長の崎山昇さんより報告が行われました。

午後は「戦争と原爆の遺構めぐり」と題したフィールドワークが行われ、爆心地公園・防空壕・三菱兵器住吉トンネル工場跡を巡り、遺構から戦時中を想像することができました。3日目は閉会総会が開催された後、「非核・平和行進」に移り、大会会場から爆心地公園まで1・2キロを行進しました。献花をした後、原爆投下時刻11時02分に全員で黙とうを行いました。その後、当日は無料で見学ができた原爆資料館を見学してきました。

(西大條 剛)



▲高校生平和大使



▲ファットマン(実物大の原子力爆弾)